

(令和3年度単年度経営計画)

(公財)京都伝統産業交流センター	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
------------------	-----------------------

基本事項

所管局課	産業観光局 クリエイティブ産業振興室	本市出えん金	5,000 千円
基本財産/資本金	11,000 千円	本市出えん率	45.5 %

当年度の取組目標

業務面	<p>目標 「持続可能な伝統産業の実現に向けた取組の推進」</p> <p>当年度から、これまでの当財団の事業の柱の一つであった京都伝統産業ミュージアムの管理運営業務がなくなるものの、伝統産業の生産組合との繋がりを基礎とした公益法人として、生産組合等作り手が主体的に行う伝統産業活性化の取組の支援や未来の担い手・作り手の育成、伝統産業製品の生活回帰・定着の促進など、持続可能な伝統産業の実現に向けた事業を生産組合等と連携を図りながらしっかりと実施していく。</p>
財務面	<p>目標 「公益法人としての健全な財政運営」</p> <p>当年度から京都市から受託していた京都伝統産業ミュージアムの管理運営業務がなくなり、当財団の収入は大幅に減少するが、公益法人であるメリットを生かした寄付金、助成金等の外部資金の獲得や効率的な運営などに努め、公益法人として公益事業を着実に実施しつつ、収支の均衡を図る。</p>
組織面	<p>目標 「運営体制の適正化」</p> <p>当年度から、京都市から受託していた京都伝統産業ミュージアムの管理運営業務がなくなり、業務や収入は大幅に減少することが見込まれるが、効率的な運営により、公益法人として公益事業を着実に実施し、かつ、持続可能な財政構造を実現するため、運営体制のスリム化など運営体制の適正化を図る。</p>
その他	特になし

当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>当年度から京都伝統産業ミュージアムの管理運営業務がなくなり、業務内容が大きく変わり、また、収入も大幅に減少するが、公益法人ならではの特性を生かした事業実施、財源確保などにより、公益事業を着実に実施しつつ、収支の均衡を図っていただきたい。</p>
-----	---

当年度の取組目標に対する総括(※)

団体	<p>令和3年度から業務内容が大きく変わり、これまでの収入が大きく減少したが、運営体制の大幅な見直しや効率的な運営に取り組むことで収支の均衡化を図り、健全な財政運営を実現することができた。また、業務面においても、京都市以外からの新たな外部資金の獲得によって、未来の担い手・使い手育成のための事業を拡充させる等、持続可能な伝統産業の実現に向けた公益事業を幅広く展開することができた。</p>
所管局	<p>京都伝統産業ミュージアムの運営管理業務が他に移行したなか、公益財団法人としての存在意義を高めるべく、文化庁からの資金を獲得し、小中学生向けの体験事業を年間200回以上実施(参加者2,000人超)するなど、実績を残している点について認められる。当年度は新体制の初年度であったが、次年度以降は、京都の伝統産業74品目を束ねる唯一の公益財団法人として、資金のかからないコーディネーターとしての役割や、外部資金の獲得に更に努めるなど、工夫が求められる。</p>

(公財)京都伝統産業交流センター	令和3年度経営計画 兼 経営努力結果
------------------	-----------------------

(1)業務に関する取組

目標「持続可能な伝統産業の実現に向けた取組の推進」

当年度目標	当年度から、これまでの当財団の事業の柱の一つであった京都伝統産業ミュージアムの管理運営業務がなくなるものの、伝統産業の生産組合との繋がりを基礎とした公益法人として、生産組合等作り手が主体的に行う伝統産業活性化の取組の支援や未来の担い手・作り手の育成、伝統産業製品の生活回帰・定着の促進など、持続可能な伝統産業の実現に向けた事業を生産組合等と連携を図りながらしっかりと実施していく。
当年度結果 (※)	次代を担う子どもたちを対象に生産組合等作り手と連携しながら、伝統産業の制作体験や展示会、講義等の機会を263回設けた。職人の指導による制作体験では、主に子どもたちを対象として2,333名に参加いただき、未来の担い手・使い手の育成につなげることができた。また、環境問題やジェンダー問題等の時事問題と伝統産業を関連させたイベントによる周知・啓発にも取り組み、持続可能な伝統産業の実現に向けて事業を実施した。

指標1	財団主催や生産組合等を支援した伝統産業活性化に係る展示会・イベント等実施数 (単位：回)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	\	\	\	\	\	\	20	263

指標2	未来の担い手・使い手育成に係る事業への子供たちの参加者数 (単位：人)							
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	\	\	\	\	\	\	1,000	2,333

(令和3年度単年度経営計画)

(公財)京都伝統産業交流センター

令和3年度経営計画
兼 経営努力結果

(2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	令和元年度		令和2年度		令和3年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	
経常収益	68,310	77,663	99,940	110,795	29,038	40,775	
経常費用	68,310	92,970	99,940	111,060	29,038	40,815	
当期経常増減額	0	△ 15,307	0	△ 265	0	△ 40	
当期正味財産増減額	0	△ 16,086	0	△ 273	0	△ 40	
資産合計	-	64,939	-	75,951	-	39,349	
負債合計	-	33,125	-	44,410	-	7,848	
正味財産	-	31,814	-	31,541	-	31,501	
うち累積損益額	-	20,814	-	20,541	-	20,501	

目標「公益法人としての健全な財政運営」

当年度目標	当年度から京都市から受託していた京都伝統産業ミュージアムの管理運営業務がなくなり、当財団の収入は大幅に減少するが、公益法人であるメリットを生かした寄付金、助成金等の外部資金の獲得や効率的な運営などに努め、公益法人として公益事業を着実に実施しつつ、収支の均衡を図る。
当年度結果(※)	令和3年度からは、京都市の受託事業による収入が大幅に減少したものの、文化庁が実施する伝統文化の啓発事業に当財団の事業計画が採択されたことにより、外部資金を獲得して未来の担い手・使い手育成に向けた事業を展開させることができた。また、効率的な運営に務めた結果、正味財産増減額をほぼ均衡させることができた。

指標	正味財産増減額の均衡								(単位:千円)
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		実績(※)
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
		7,450		△16,085		△ 273	0		△ 40

(3)組織に関する取組

目標「運営体制の適正化」	
当年度目標	当年度から、京都市から受託していた京都伝統産業ミュージアムの管理運営業務がなくなり、業務や収入は大幅に減少することが見込まれるが、効率的な運営により、公益法人として公益事業を着実に実施し、かつ、持続可能な財政構造を実現するため、運営体制のスリム化など運営体制の適正化を図る。
当年度結果(※)	令和3年度からの事業縮小に対応するため、運営を最低限の4名体制に縮小させることにより、大幅なスリム化を行ったうえで効率的な運営に努め、持続可能な財政構造の実現に取り組んだ。

指標	職員数(臨時職員を除く)の適正化								(単位:人)
目標と実績	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		実績(※)
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
		6		8		8	4		4